令和6年度
総合型選抜入試2期入学試験

基礎学力試験問題
(小論文)

1. 試験時間は、60分です。
2. 問題は、この冊子の1～4ページにあります。問題用紙が解答用紙を兼ねています。
3. 問題や解答を、声に出して読んではいけません。
4. 印刷の不鮮明、用紙の過不足については、申し出てください。
5. 問題や解答についての質問は、原則として受け付けません。
6. 終了の合図があったら、すぐに筆記具を置いて、解答用紙を机の上に伏せてください。
7. この問題用紙は、持ち帰らないでください。
8. 不正な行為があった場合には、解答をすべて無効とします。
9. 答案の文字は、ていねいに、かつ明瞭正確に書いてください。
10. その他、試験の進行については、監督者の指示に従ってください。

植草学園大学 保健医療学部

受験番号		氏名	
------	--	----	--

青少年がスマートフォンを介してインターネットにアクセスし、様々なリスクにさらされることが増えている。青少年がスマートフォンを活用する際のリスクを低く抑えるための対策の1つとしてフィルタリングが挙げられる。フィルタリングは、スマートフォンを使って違法な情報や出会い系・アダルト系サイト等の青少年に不適切な情報、サービスやコンテンツへのアクセスを制限するものであり、有効に活用することで、スマートフォン利用の安全性を高めることが期待できる。

日本では、携帯電話のインターネット接続サービスを提供する企業に対し、フィルタリングサービスを提供する義務が課されている。ただし、利用者が青少年の場合は、保護者がフィルタリングサービスの利用を行うか否かを選択できる。2021年時点で、スマートフォンを利用する青少年のフィルタリングサービス利用率は、小学生の47.1%、中学生の52.1%、高校生の35.6%に止まっており（内閣府、2022）、十分に高いとは言えない。スマートフォンのフィルタリングサービス利用率の引き上げを妨げている要因として、自由なインターネット利用を妨害してしまう可能性やフィルタリング方式の複雑性を始めとする、いくつかの問題点が挙げられる。

フィルタリングはアクセスを非常に厳しく制限するものから、より緩やかでより広い範囲のサイトへのアクセスを許容するものまで、様々な種類がある。しかし、サービスの柔軟性が裏目となり、適切なフィルタリングの選択を困難にし、青少年や保護者を利用自体から遠ざけてしまっている可能性が考えられる。

また、フィルタリングを活用していたとしても完全にリスクを回避できるわけではない。有害性が低いと判断され、フィルタリングサービスにおいてアクセス制限の対象となっていない一般のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）サイトを利用して、青少年が見知らぬ他者と連絡を取り合い、犯罪の被害に遭うケースも増えている。

参考文献：内閣府（2022）令和3年度青少年のインターネット利用環境実態調査
保護者調査35 フィルタリングサービスについて

問題 次の問いに答えなさい。

問1 表1をみて、以下の問いに答えなさい。

- 1) 「親に話しにくいサイトを見たことがある」と回答した中学生は、回答者の中におよそ何人いたか。
小数第1位を四捨五入して、整数で求めなさい。

() 人

- 2) 「インターネットで知り合った人とメッセージやメールなどのやりとりをしたことがある」と回答した高校生の割合は、同様の経験をした小学生の割合の何倍か。小数第2位を四捨五入して、小数第1位まで求めなさい。

() 倍

問3 表2について、以下の問いに答えなさい。

- 1) 表2に示された項目のうち、小学生の保護者が「フィルタリング活用のきっかけ」として最も多く回答した項目と最も少ない項目はそれぞれ以下の①～⑤のどれか。選択肢の番号を解答欄に記入しなさい。

- ① 販売店での説明 ② インターネットの情報 ③ 学校や保育園・幼稚園での説明
④ 友人や保護者同士の会話 ⑤ テレビや本、パンフレットの情報

最も人数が多い項目 () 最も人数が少ない項目 ()

表2 青少年のフィルタリング活用のきっかけ

	小学生の保護者	中学生の保護者	高校生の保護者
回答者数(人)	477	670	380
販売店での説明	32.1	42.2	58.0
インターネットの情報	37.5	31.7	17.8
学校や保育園・幼稚園での説明	18.9	26.8	26.0
友人や保護者同士の会話	26.2	25.3	17.1
テレビや本、パンフレットの情報	25.2	17.7	14.2

出典：内閣府（2022）令和3年度青少年のインターネット利用環境実態調査
保護者調査22 フィルタリング利用のきっかけ

注) 10歳から17歳の青少年の保護者を対象とした調査で、フィルタリングを活用していると答えた保護者にフィルタリング活用のきっかけについて質問した。回答者数の数値は人数を表し、それ以外の数値は各項目に“あてはまる”と回答した回答者の割合(%)を示している。
なお、出題の都合上、上位の項目を残して一部項目を削除し、表の構成などを改変している。

- 2) 表2において、フィルタリング活用のきっかけを「販売店での説明」と回答した中学生の保護者の人数と高校生の保護者の人数の差を求めたい。差を算出するための式を表し、答えは小数第1位を四捨五入して、整数で求めなさい。

式：

答え：()人

問4 青少年が危険にさらされることなくスマートフォンを活用しつつ、大人になるまでにはフィルタリングに頼らずに自分の安全を自分で守れるような対処能力を身につけていくことが理想である。そのために、スマートフォンを利用する青少年がどのようにフィルタリングサービスを利用したほうがよいかについて、あなたの意見と、その理由を述べなさい。加えて、上記の理想の実現のために、青少年自身やその保護者に対して、どのような支援が行われることが望ましいかについて、冒頭の文章や図表に示された情報も踏まえてあなたの意見と、その理由を述べなさい。

なお、解答は400字以内にまとめなさい。